



日本企業の月末要因による 円買いアノマリーについて

製作者 : Sawyer



日本企業の月末要因による 円買いアノマリーとは

- ▶ 日本企業は給与・配当支払いのため、月末に外貨で得た資金の一部を日本円へ変換し保有する傾向があります。そうした実需の値動きに合わせて、JPYが買われる動きを確認することが出来ます。
- ▶ その動きについて、今回は「日本企業の月末要因による円買いアノマリー」と称して深堀していきたいと思います。
- ▶ テストロジック (Power_of_Japanより)
 - ・ USDJPYの通貨ペアで取引を実施する。
 - ・ 毎月23日から31日に取引を行う。
 - ・ 日本時間の8時～15時までUSDJPYの売りポジションを保有する。

テストロジック成績

2000年1月～2023年1月末でバックテスト
(TP:200、SL:90、スプレッド1.5pips)

Strategy Tester Report Power_of_Japan-OriginalVer1.3

| | | | | | |
|------------|---|--------------|------------------|--------------|------------------|
| 通貨ペア | USDJPY (US Dollar vs Japanese Yen) | | | | |
| 期間 | 30分足(M30) 2000.01.03 00:00 - 2023.01.30 23:30 (2000.01.01 - 2023.01.31) | | | | |
| モデル | 全ティック (利用可能な最小時間枠による最も正確な方法) | | | | |
| パラメーター | MagicNumber=20180601; Lots=0.2; TakeProfit_pips=200; StopLoss_pips=90; _Caution=""; TEST_GMT=2; _summertime=""; Summertime=1; | | | | |
| テストバー数 | 287035 | モデルティック数 | 283849023 | モデリング品質 | 90.00% |
| 不整合チャートエラー | 0 | | | | |
| 初期証拠金 | 1000000.00 | スプレッド | 15 | | |
| 純益 | 1581400.00 | 総利益 | 4549000.00 | 総損失 | -2967600.00 |
| プロフィットファクタ | 1.53 | 期待利得 | 994.59 | | |
| 絶対ドローダウン | 5600.00 | 最大ドローダウン | 85700.00 (7.93%) | 相対ドローダウン | 7.93% (85700.00) |
| 総取引数 | 1590 | 売りポジション(勝率%) | 1590 (56.98%) | 買いポジション(勝率%) | 0 (0.00%) |
| | | 勝率(%) | 906 (56.98%) | 負率(%) | 684 (43.02%) |
| | | 最大 勝トレード | 40000.00 | 敗トレード | -18000.00 |
| | | 平均 勝トレード | 5020.97 | 敗トレード | -4338.60 |
| | | 最大 連勝(金額) | 15 (37320.00) | 連敗(金額) | 8 (-24600.00) |
| | | 最大 連勝(トレード数) | 104360.00 (11) | 連敗(トレード数) | -63000.00 (5) |
| | | 平均 連勝 | 2 | 連敗 | 2 |



アノマリーの源泉①

日本企業について

▶ 日本企業について

日本企業では、IRの報告は日本円で行い、給与や配当の支払いは日本円による決済が基本となります。

その為、月末※1にある程度まとまった資金を日本円へ交換しておく必要があります。

※1_企業により異なる場合があります

また、特に配当の支払いは企業の価値を担保するために必要不可欠なものであり、金額も割合で公表しているため非常に大きな金額となります。

日本たばこでは利益の75%、トヨタ自動車でも30%となっています。

アノマリーの源泉②

配当支払い額の例（JT、トヨタ自動車）

▶ JT

JTは特殊な企業で配当性向を75%（純利益の75%を配当）としております。

海外たばこ事業の2022年1月～12月の調整営業利益は「6392億44百万円」です。

内75%は配当（円払い）となっております。

その他要因も含めると利益のほとんどは日本円に交換されていると考えられます。

日本円へ仮に5000億円変えているとして、月当たり400億以上の資金を日本円へ交換していることとなります。（調整後営業利益で引かれている人件費等、日本円で計上されているものが含まれていないため実際はもっと多いと思われます。）

▶ トヨタ自動車

こちらの連結配当性向は30%となります。

海外自動車部門の営業利益が計1.6兆円を超えるため、少なくない額が日本円に流入していることは間違いありません。

アノマリーの源泉③

日本の貿易について

■ 日本の貿易について

日本は輸出入の額が国際的にみても多く、令和4年度の貿易額は輸出は約98兆円、輸入は約118兆円となっております。

近年は貿易赤字が目立っておりますが、輸出による利益の一部は月末に日本円に交換される一方、輸入の場合は支払い額が確定した後は為替リスクを減らすためなるべく早くに支払い通貨に交換されます。

また、対アメリカに注目した場合は年間で6兆円以上の貿易黒字となっております。

日本が貿易で大きな黒字となっている国の通貨に対しては日本企業の月末要因による円買いアノマリーの優位性は高くなると考えられます。

参考資料：<https://www.customs.go.jp/toukei/shinbun/trade-st/gaiyo2022.pdf> （財務省令和4年分貿易統計）

アノマリーの源泉④

FX市場について

▶ FX市場の資金の流れ

今回説明した日本企業の月末要因による円買いのアノマリーですが、これらはすべて実需による資金移動となっております。

その為、これらのお金は実際に市場に流れ為替レートに密接にかかわってくる資金となります。

しかし、我々の取引主体であるFXは拠出金取引であるため、必ず近いうちに反対注文を行われることが決まっています。

ここで取引された資金のすべては市場に流れず、FX会社内の注文で多くは相殺され、FX会社内のポジションバランス調整のヘッジ注文のみが実際の市場に流れます。

その為、同ロジックが複数で利用されたとしても市場への混乱は起こりにくいと考えます。



まとめ

日本企業の月末要因による円買いアノマリーについて説明させていただきました。
実際に私は2017年頃から同一ロジックを用いて取引を実施しておりますが、
レンジ・上昇・下降といずれの相場でも安定して利益を上げることが出来ております。

本質的な流入資金量は非常に大きく、その資金の動きに沿う取引であること、
FXの取引内容が市場に実際に流れる量は絞られていることも加味して、
利用者が多少増えたとしても優位性が保たれる稀有なアノマリーなのではないでしょうか？